

**2016年1月期12月度 月次業績動向(2015年11月21日～2015年12月20日)**
**会社名 ピープル株式会社**

(http://www.people-kk.co.jp/)

代表者名 取締役兼代表執行役 桐渕千鶴子

上場取引所: 東証JASDAQ

コード: 7865

TEL: 03-3862-2768

問合せ先: IR担当 飛田留美子

科目	《月次の対比》			《期初からの累積の対比》			《過去12ヶ月累積の対比》		
	2015年1月期 12月度	2016年1月期 12月度	前年 同月比	14/1/21～ 14/12/20	15/1/21～ 15/12/20	前年 同期間比	13/12/21～ 14/12/20	14/12/21～ 15/12/20	前年 同期間比
売上高	519,478	653,887	125.9%	3,324,934	4,381,959	131.8%	3,451,555	4,583,334	132.8%
営業利益	121,577	163,808	134.7%	339,589	669,239	197.1%	260,962	645,783	247.5%
経常利益	127,321	163,932	128.8%	360,096	678,409	188.4%	314,166	648,217	206.3%
税引前利益	127,321	163,932	128.8%	360,087	678,841	188.5%	314,158	648,648	206.5%
流動資産	2,256,036	2,504,074	111.0%	<b>【2016年1月期第4四半期会計期間 (2015/10/21～2016/1/20)業績予想】</b> (2015年12月3日発表) ・売上高: 14億7百万円(前年同期間比19.4%増) ・営業利益: 1億78百万円(同比1.8%増) ・経常利益: 1億76百万円(同比4.1%減) ・四半期純利益: 1億12百万円(同比0.4%増)			<b>【2016年1月期 通期 (2015/1/21～2016/1/20)業績予想】</b> (2015年12月3日発表) ・売上高: 45億61百万円(前期比29.3%増) ・営業利益: 5億82百万円(同比84.0%増) ・経常利益: 5億82百万円(同比76.4%増) ・当期純利益: 3億72百万円(同比84.7%増)		
固定資産	194,013	201,200	103.7%						
流動負債	420,259	464,110	110.4%						
固定負債	50,000	50,000	100.0%						
純資産	1,979,789	2,191,164	110.7%						
総資産	2,450,048	2,705,274	110.4%						

**商品別売上高**

商品カテゴリー名	2015年1月期 12月度	2016年1月期 12月度	当月 構成比	14/1/21～ 14/12/20	15/1/21～ 15/12/20	当期間 構成比	13/12/21～ 14/12/20	14/12/21～ 15/12/20	当期間 構成比
乳児・知育玩具	170,972	159,165	24.3%	1,158,833	1,379,742	31.5%	1,186,389	1,452,352	31.7%
女兒玩具	138,911	177,828	27.2%	676,646	924,620	21.1%	709,787	970,309	21.2%
遊具・乗り物	80,806	107,211	16.4%	530,250	825,438	18.8%	550,064	842,047	18.4%
海外販売、その他	128,788	209,683	32.1%	959,205	1,252,159	28.6%	1,005,315	1,318,626	28.7%
合計	519,478	653,887	100.0%	3,324,934	4,381,959	100.0%	3,451,555	4,583,334	100.0%

**12月度新発売商品・リニューアル**

当月はありません。

当12月度総売上高は、6億54百万円、前年同月対比25.9%増と押し上げました。

玩具市場は前年大ヒットアイテムによる加熱月間であっただけに、当年12月度商戦は押しなべて大苦戦と業界誌で報道されましたが、内訳では知育構成玩具、女兒玩具等が好調で補う展開も見られたようです。当社商品は一部乳児低単価商品等では育児系販売店の客足の遅さ等に影響を受け、当月の補充注文が縮小したものの、市場全般好調の人形シリーズの補充注文はクリスマス24日の寸前まで追加が相次ぎ、当月の売上高を前年同月比で大きく持ち上げました。

自転車市場では、円安の影響による価格高騰等の要因もあり、大人車も含め平均販売台数の減少も顕在化する中、当社の幼児自転車は前年に比べ取扱い店舗数の増加に伴い、当12月度の当社出荷販売数ベースでは前年を超えて推移し、遊具・乗り物カテゴリー売上増に貢献しています。

このような国内販売2本柱が堅調の上に、当12月度では海外販売においても新年用の出荷が当12月度に集中して、総売上高を押し上げました。